

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況は高止まりの状態が継続しているが、夏祭りなどのイベントが行われたこともあり、上旬から中旬に掛けて地域住民を中心に来街者数の増加がみられた。また、イベント期間外は観光客の入込もみられ、他市ナンバーの車両が目につくことが多かった。それらの駐車状況を見ると、主に飲食、土産で売上を伸ばしたとみられる。
	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・ここ数ヶ月の景気は新型コロナウイルス感染症発生前とほぼ同様の水準に戻っている。また、家族連れで帰省したり、旅行したりといった動きは、以前は夏休み期間に集中することが多かったが、今年は7月中から多くみられたことが特徴となっている。そのため、伸び率としては8月よりも7月の回復が目立っている。
	◎	百貨店（営業販促担当）	単価の動き	・8月から閉店セールを開催していることで、来客数、売上共に増加している。特に衣料品、服飾雑貨がよく売れており、客単価アップにつながっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・来街者が戻りつつある。商店街のイベントなどへの参加者も大幅に増えている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前年比で255.7%、前々年比で239.1%、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年比で56.6%となっている。天候に恵まれたことに加えて、行動制限などもなかったことから、観光客が増加している。ただ、新型コロナウイルスの第7波による感染者数が世界一という状況ではこれが精一杯の売上である。
	○	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりしているものの、消費者の購買意欲は高くなっている。今年は気温が余り高くならず、秋の気配が早く訪れていることもあり、秋物衣料を中心に動きが活発になっている。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・お盆商戦の期間中は帰省客が増加し、大人数向けのごちそう商材やパーベキュー商材が好調に売れた。
	○	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前と比べて、客単価が上昇している。海外からの入国制限の緩和に伴って旅行者が増加するようになれば、一層上向くことが見込まれる。
	○	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・各種イベントでの人流が増加している。新車の販売量も増加している。
	○	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスによる感染は心配だが、必要な行動はするという新しい動きがみられる。マスクはするが、購買行動もきちんと行うという新しい動きが出ており、やや活気が戻ってきた。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・少しずつではあるが、来客数が増えつつある。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・3年ぶりに行動制限のない夏季繁忙期を迎えたことから、7月の航空需要は新型コロナウイルス感染症発生前の81%まで回復した。8月のお盆期間は帰省などの生活需要が活発であり、空港では久しぶりに家族を出迎える光景が多くみられた。空港の国内商業施設にもにぎわいが戻っている。
	○	タクシー運転手 観光名所（従業員）	お客様の様子 来客数の動き	・人の動きがやや良くなっている。 ・期待していた夏休み期間中に新型コロナウイルスの感染拡大傾向がみられたこと、天候不良な日が多かったことなど、マイナス要因が多く、その影響を心配したが、それをしのぐ勢いの利用客がみられた。行列や待ち時間が発生することも多々あった。
	○	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染者数が増加しているが、客の動きは衰えておらず、来客数が伸びている。客の来店頻度も高くなっている。
	○	美容室（経営者）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前までとはいかないが、来客数がやや回復している。
○	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が続いているが、まん延防止等重点措置などが出されていないため、多くの場所で来客数が増えている。	

□	商店街（代表者）	販売量の動き	・少しずつ持ち直しつつあるが、原材料の値上げがまだに続いているため、現時点では何とも判断が付かない。
□	一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染者数が高止まりしていることで人流が停滞しており、飲食店が苦戦している。当社の売上も7月よりも悪い状況となっている。
□	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・来客数の前年比をみると、5月が96%、6月が90%、7月が95%、8月が25日時点で90%となっており、若干の減少傾向にある。ただ、ウィンドウショッピングをする客が減っている一方で、買上客数は前年比110%と順調に推移している。4月以降、同様の流れが続いている。
□	スーパー（店長）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の第7波による影響がみられる。行動規制こそ出されていないが、爆発的に感染が拡大しているというネガティブ要因があるため、景気は変わらない。
□	スーパー（店長）	販売量の動き	・お盆商戦については、前年よりも帰省者が増えたこともあり、来客数は微増している。一方、大人数用のすしやオードブルなど、ハレ型商材の動きが例年よりも鈍く、販売量の減少、客単価の低下といった動きがみられる。
□	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・行動規制が出されていないこともあり、8月は帰省客、観光客が多くみられた。一見すると、景気が良くなっているように見えるが、来客数が前年を下回っていることから、景気はさほど良くなっていない。
□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・一部で観光客の動きがみられるが、新型コロナウイルスの感染者数が増えているため、販売量は行ったり来たりを繰り返している。全体的には余り大きな変動はみられず、現状維持での推移となっている。
□	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・商材の値上げもあり、販売量が若干減っても前年の売上を上回っている。ただ、光熱費や人件費の上昇もあり、景気が上向いているわけではない。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・前月と同様の状況が続いている。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数は順調に推移しているが、部品調達の兼ね合いで納期がかなり遅れることが多いため、売上が立ちにくい状況にある。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売価格に大きな変動がなく、景気を上向かせるような動きもみられないことから、現状維持の状況が続いている。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	単価の動き	・石油製品価格に特段の変化がみられないことから、景気は変わらない。
□	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・景気はやや悪い状況のまま変わっていない。ランチを中心に売上が増えたが、ディナーが伸びず、新型コロナウイルス感染症発生前の50%に届かない状況にある。都市部や温泉街のホテルでは宿泊客や朝食の利用人数が伸びていたり、観光客の来る居酒屋では来客数が増えているようだが、高級店においては厳しい状況が続いている。また、食材業者からは夕食でワインを提供するような高級店は売上が伸びていないとの話を聞いている。食堂を経営する友人からは役所内の食堂も職員の事情などもあって、来客数が元に戻らないとの話も聞いている。
□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が拡大しているが、移動制限などが出されていないことから、人出の減少もみられず、景気は変わっていない。
□	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・経済対策である全国旅行支援がまだに実施されていないことから、旅行需要が大都市圏に偏重しており、道外客が回復してこない。また、海外からの入国に際して1日当たり2万人の受入上限枠が設定され、PCR検査やビザ取得が義務付けられているため、インバウンドが全く戻っていない。これらのことから、非常に景気の悪い状態が続いている。

□	観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・ここ数か月、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えれば予約が止まり、落ち着けば予約が増えるという状況を繰り返している。
□	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症が急激な拡大をみせているものの、行動制限がないことから、全体としてはプラスマイナスゼロの状況にある。
□	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・新型コロナウイルス新規感染者数の急増に伴い、旅行のキャンセルが発生しつつある。一方、出発が冬以降の旅行への問合せもみられる。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・8月の当社の売上は前年比プラス30%であったが、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年比ではマイナス30%であった。行動規制などがなく、前年と比べれば人の動きがあるが、夜間、特に夜9時以降の繁華街の人は少なく、タクシー利用も新型コロナウイルス感染症発生前と比べて極端に少ない。また、乗務員について、新規採用がほぼなく、年々減少していることから、タクシーの稼働台数も減っている。乗務員数は新型コロナウイルス感染症発生前の2019年比で20%の減少となっている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着いてこないことからキャンセルが発生している。そのため、来客数の変化がほとんどみられない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・道内の新型コロナウイルス新規感染者数が増えているが、今夏の人の流れは前年よりも若干良くなっている。
□	通信会社 (企画担当)	お客様の様子	・通信端末やサービスへの需要は比較的持ち直しているものの、付随する電力サービスやカード事業などの受注量が大きく落ち込んでいる。
□	美容室 (経営者)	販売量の動き	・この3か月間、売上が前年とほとんど変わらずに推移している。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに来訪する客の多くが分譲マンション価格の高騰を感じていることもあって、購入決定までに掛かる時間が以前よりも短くなっている。
▲	商店街 (代表者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が顕著に表れており、宴会予約のキャンセルなど大きな影響が出ている。また、来街者数に余り変化はみられないものの、消費行動の中心である高齢者の割合が急激に落ち込んでおり、売上の減少につながっている。
▲	百貨店 (売場主任)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による来場者数の減少に加えて、様々な原材料価格の高騰による商材の値上がりもあり、販売量の減少傾向がみられる。
▲	スーパー (企画担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスへの行動制限がないことで、お盆商戦後も来客数が引き続き低迷している。また、物価高の影響で買上点数も伸び悩んでおり、直近の売上は厳しい状況で推移している。
▲	スーパー (従業員)	お客様の様子	・来客数の減少が継続している。新型コロナウイルスの感染状況が悪化していることで、客の来店頻度も低下している。値上げに伴う客単価の上昇、まとめ買いによる買上点数増加といった動きもみられるものの、来客数の減少幅が大きく、景気は悪化している。
▲	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・最悪だった前年よりは良いが、お盆以降明らかに客の動きが鈍っている。悪い状況にあっても下見客はちらほらみられるが、購買意欲がないことが大きな問題である。
▲	家電量販店 (店員)	販売量の動き	・8月の来客数は前年並みであったが、客単価が低下している。月後半は客からの問合せも少なかった。
▲	自動車備品販売店 (店長)	来客数の動き	・商品単価の上昇や客の買い控えがみられることから、景気はやや悪くなっている。
▲	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・行動制限が出されていない状況のため、来客数が大幅に減少することはないものの、客が増加する様子も感じられない。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で売上が再び低下している。物価の上昇とあいまって厳しい状況にある。

	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響に加えて、自社におけるクラスターの発生もあり、減便を余儀なくされている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況がこれだけ拡大してくると、客足が元に戻ることはなかなか期待できない。前月よりも景気は悪くなっている。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年よりはましたが、新規予約者数が減少している。また、新型コロナウイルスへの感染による旅行のキャンセルも増加している。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・当地では新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で新規感染者数が連日のように過去最高を更新している。お盆時期に例年の8割まで回復していた売上も一気に6割まで減少した。
企業動向関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・地震や大雨の影響が一部の土木工事現場でみられたが、大きな支障を来すことなく、全体の出来高が順調に積み上がっている。新型コロナウイルス感染症の第7波にあっても、民間建築の見積り引き合いが増えていることもプラスである。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・トレーラー輸送全体は微増傾向にある。輸入飼料価格が高騰していることでイワシや魚粉などのフィッシュミールの荷動きも旺盛である。飲料関連は関東地区の猛暑の影響もあって堅調であるが、本州向けの生乳は伸びていない。大雨の影響による鉄道貨物輸送障害を受けて、トレーラー輸送に変更する案件も増えている。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・建設投資が順調に伸びており、当社の売上は前年比で7%程度の伸びを示している。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・受注量が増えている客先と減っている客先があり、全体量では変わらない状態となっている。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・個人消費は人の動きが活発化していることでサービス消費が持ち直している。財の消費は、物価上昇の影響で食品などの節約志向がみられる一方で、百貨店での高額商材の売上が好調に推移するなど、2極化している。投資は対象により濃淡がみられる。総じてみれば、道内景気は3か月前と比べて変わらない状況にある。
	□	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数は依然として高止まりしているが、行動規制が出されていないため、旅行などの人の往来が増えている。感染がますます拡大するといった影響は懸念されるものの、観光業関連の業種にとっては追い風となっている。一方、物価が日を追うごとに上がっていることで、家計は苦しい状況にあり、景気が良くなっている実感はない。こうした状況では、借金して不動産を買うという発想が出てきづらい。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・不動産売買や建物新築の案件数によって当方の受注量も決まってくる。手頃な新築物件の需要はあっても、物価の上昇や建築資材の不足から供給できる量に限度があるため、全体の受注量が増えてこない状況にあり、景気は余り変わらない。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・北海道新幹線の札幌延伸関連工事、再開発などの都市部を中心とした民間建築工事、再生可能エネルギー関連工事などの継続案件がみられる。ただし、需要は一部の地域や都市に限られている。
	▲	食品品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上は前年と比較すると若干良いが、3か月前と比較すると1割ほどの落ち込みとなっている。
	▲	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建設設計案件の絶対数が半減している。プロポーザル、入札など、2年前と比べて数が半分となっている。

	▲	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量 の動き	・計画値を少しずつ下回る状況になっているなど、納期遅れや欠品などの影響が大きくなっている。製品の値上げなどもあり、今後の受注量減少なども心配である。
	×	*	*	*
雇用 関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	求人情報誌製作 会社 (編集者)	周辺企業の様子	・当地域における新型コロナウイルス新規感染者数が高止まりしていたことから、中心繁華街関連の回復が遅いものの、土木建設及び食品加工業の求人意欲がやや高まっている。
	○	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・国内の観光客の動きが活発で観光地に人が集まっていることで宿泊業、旅客運送業などの求人数が増えている。新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているものの、飲食店の求人も堅調である。建設、運輸業も引き続き堅調で、外国人雇用のニーズが高まっている。
	○	職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・当地における7月の有効求人倍率は0.94倍であり、3か月前との比較では0.05ポイント上回った。
	○	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・2023年新卒者に向けての内定出しなど、企業側の採用活動も順調に終盤を迎えていることから、景気は回復している。ただ、学生目線では、新型コロナウイルスに弱い業界は避けたいとの意思が引き続き強く、新卒予定者の内定承諾状況を見ると、業界によっては厳しい現状がみられる。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は増加傾向にある。前月と同様に、営業系の求人数が増えており、管理系の求人も底堅く増加している。8月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えたが、動きが落ち着いてきたと判断されていることで、ホテルやイベント関連からの求人数が3か月前と比べて増えている。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしているが、経済は動いている。現状では新型コロナウイルスの影響よりも物価高騰の影響が大きくなっている。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・求人広告は前年比120%の申込みとなっている。ただ、飲食、清掃、給食会社が倍増と好調なのに対して、当地の主幹産業である建設業が70%にとどまっていることが気掛かりである。
	□	職業安定所 (職 員)	求職者数の動き	・7月の新規求職者数が前年から4.6%減少している一方で、新規求人数は前年から1.1%の増加となっている。今後への懸念材料はあるものの、業況が堅調な企業を中心に求人が出されていることから、景気は変わらない。
	▲	—	—	—
	×	職業安定所 (職 員)	それ以外	・様々な物、サービスの値上がりにより賃金の上昇が追い付いていないことから、景気は悪くなっている。これからジリ貧になることが懸念される。